



令和8年8月9日(日)

学校教育目標 心豊かに たくましく 自ら学ぶ子どもの育成 第10号 文責：校長 真崎 哲也

諫早市立真津山小学校
854-0063
諫早市貝津町715番地2

電話

26-1473(職員室)
26-1081(校長室)
26-1204(FAX)

電子メール

e-matsuyama@isahaya-
snet.ed.jp

Web サイト

<https://www.isahaya-snet.ed.jp/school/e-matsuyama/>



真津山
小 HP
ぜひご
覧ください！

〔年間生活重点目標〕

1年間徹底します！！

- ①進んであいさつ・返事
- ②くん、さんづけ
- ③はさみ歩き

なかよし委員会の子どもたちが本日の平和集会を立派にリードしました！



怖いのは、「無関心」であること

立秋を迎え、暦の上では秋の始まりですが、この酷暑はまだまだ続きそうです。保護者、地域の皆様いかがお過ごしでしょうか。台風13号の接近に伴い、やや強めの風が吹きましたが、大きな被害はなく過ぎ去りほっとしています。お湿り程度の雨は降りましたが、できれば一定の量降ってほしかったですね。まとまった雨はもうひと月以上なく動物も植物も元気がありません。

さて、本日8月9日、81回目の長崎原爆の日を迎え、学校では平和集会を開き、平和や戦争について考え、全校で黙とうを行い、平和への誓いを新たにしました。原爆が投下され、終戦となって81年が経過したことになります。その日の惨状や悲しみ、事実を風化させることなく、未来に継承していくことが、命を引き継いでいただいた私たちの責任であり、教育の果たすべき役割です。子ども達には起こった事実を正確に伝え、なにごとであるのかを考え、理解させていきます。そして、自分や周りの人を分け隔てなく愛し、命を大切にする子どもに育てていきたいと思っています。今日は、ご家庭でも戦争や平和のことが話題にしていいただければ幸いです。

以下に本日の平和集会で子ども達に伝えたことを掲載しています。(抜粋です)



みなさんは、学校生活の中で、誰かが困っているときや、悲しそうな顔をしているとき、どうしますか？「自分には関係ないや」「誰かが助けるだろう」と、見て見ぬふりをしたことはありませんか？戦争という恐ろしい出来事も、「自分には関係ない」「誰かが何とかするだろう」という、人間の心の「冷たさ」や「無関心」から始まります。

今から81年前の8月9日。長崎の町は、今日のようにとても暑く、よく晴れた夏の日でした。午前11時2分。長崎市の空に、一発の原子爆弾が落とされました。鉄でできた工場も、みんなが住んでいる家も、お店も、学校も一瞬でドロドロに溶けました。近くにいた人たちは、逃げることも、叫ぶこともできず、一瞬で骨と灰になって消えてしまいました。この一発の爆弾で、およそ「7万4,000人」もの尊い命が奪われました。真津山地区に今住んでいる人の数はおよそ1万人です。諫早市全体ではおよそ13万人です。つまり、諫早市の半分以上の人が、一発の爆弾で亡くなったのです。当たり前にあるはずの幸せが11時2分に全て無くなったのです。

この恐ろしい原爆や戦争は、だれが起こしたのですか？そう、私たちと同じ「人間」が起こしたものです。誰かが傷ついていても「自分のせいじゃない」と言い張る。悪いことをしても「みんながやっているからいいや」と言い訳をする。そうやって、一人ひとりが心にブレーキをかけず、責任を誰かに押し付け合い、周りの人に無関心になる・・・その先に戦争はあるのだと校長先生は思います。

2週間前の7月28日に熊本県で大きな地震が起こったのをみなさんは知っているでしょう。私たちが住む諫早市も大きく揺れました。2週間経った今でも水道から水がでない、お風呂にも入れない、おふとんで寝れない・・・そんな方々がたくさんおられます。その人たちを助けるために、いろいろな町の人が水をたくさん積んだ車で熊本を目指しています。アイスや飲み物をお金をとらず、配っている人がいます。壊れた建物の片付けの手伝いをする人がいます。歌や音楽で元気づけようとしている人もいます・・・被災した熊本みなさんはどんな気持ちになったでしょうね。きっとたくさんの希望と勇気をもらったはずです。

平和な日本や世界をつくるために、私たちにできることは何でしょうか。それは、「誰かがやるだろう」を、絶対にやめることです。今日から、みなさんの周りで、友達が一人でポツンと寂しそうにしていたら、「誰かが声をかけるだろう」ではなく、「自分が」声をかけてあげてください。誰かが嫌なことを言われて悲しんでいたら、「関係ないもん」ではなく、「自分が」味方になってあげてください。

この学校にいる624人一人ひとりが、「自分が、世界の平和をつくる主人公なんだ」という強い責任を持つことを、原爆で命を奪われた7万4,000人の方々へ約束しましょう。

